

徽州婚姻に表れた贈答関係 —中国・徽州『夫栄子貴』の分析から—

馬 路[※]

徽州の伝統的な結婚は儀式が複雑で、各段階の儀式を行う時、必ず贈答品のやり取りが行われる。結婚の贈答には婚家と実家の間で行われる結納品と嫁入り道具だけではなく、他人からもらう贈り物も含まれるべきであると考え、贈答品を結納品、嫁入り道具、交際の贈答の三つの部分に分けられる。

徽州の結婚に関する文献には、結婚による社会関係・宗族、結婚の儀式がよく論じられている。しかし、結婚贈答の構造や流れを分析する研究が殆ど見られない。

筆者は黄山学院に保存された同治三年（1864）の帳簿『夫栄子貴』を中心として、清末と中華民国時代に徽州地区の結婚儀式、結婚贈答の構造を分析し、贈答品の流れ・交換の目的・贈り物の意味を考察する。

一 調査地の概要

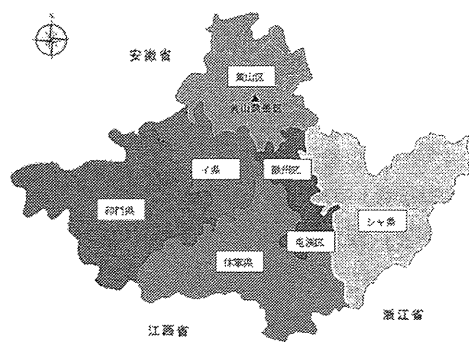
1 黄山市と休寧県の自然環境

本研究の調査地は私の故郷、安徽省黄山市である。黄山市はかつて徽州と呼ばれた場所で、安徽省の最南部に位置し、浙江省と江西省に境を接している。

徽州と呼ばれているのは、宋代に形成された「一府六県」（徽州府と歙県・黟県・休寧県・祁門県・婺源（ぶけん）・績溪）を含めた範疇であり、徽州の文化を研究する徽学は主にその範囲を対象に行われている。



地図1 黄山市の位置



地図2 黄山市の三区四県

※ 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士後期課程

1987年に徽州府が廃されて黄山市が設立された。現在、黄山市は三区(屯溪区・黄山区・徽州区)・四県(休寧県・歙県・祁門県・黟県)を管轄下に置き、その面積は9,807平方キロメートル、人口数は148万人(2011年末)である。現在の行政区画では婺源は江西省の管轄下に、績溪は安徽省宣城市の管轄下に置かれている。なかでも黄山市は徽州の主要部を占めており、徽州文化の源とも見なされている。黄山市は丘陵地帯であり、北西部には黄山山脈が、南部には天目山と率山山脈が位置し、中部は徽州地区最大の徽州盆地が広がる。70%が山地を占める徽州では、狭い田地の山の谷間や盆地にぼつぼつと分布している。土壌は酸性で食糧の産量は低いが、茶葉と林業が盛んである。黄山市は水資源が豊富な地域であり、徽州は昔から新安江によって浙江省、江蘇省南部と繋がっている。

2 調査地の歴史的背景

徽州は山に囲まれた閉鎖的な地域であるが、漢時代から戦乱を避けるため徽州へ転居した北方の貴族が父系血縁を重要視し、何世代を経るうちに、徽州にも強い宗族社会を築くことになった。宗族文化とは、儒教を基礎としており、宗族内の血縁的つながりと地縁的つながりを強固にしながら、宗族の政治、経済地位と族人の団結力を強調する文化を指す〔唐 2004: 7〕。南宋から全国に広まった朱子の思想は徽州にも深く影響を与え、新安理学として形作られ、それは徽州の文化の柱となった。新安理学は宗族社会を固め、それに呼応するように、徽州の宗族社会は新安理学を促進したのである。

自然に恵まれないこの徽州にとって、増大する人口とそれを支える食糧は厳しい問題である。大きな食糧不足の原因で、家を出て商売をする徽州人を多く生み出す。明代後期になると、徽州商人は塩の専売により、商売の範囲を全国及び海外にまで広げた〔馮 2008: 41〕。清朝中期には、徽州商人の全盛期ともいえる時代を迎えた。巨額の財を得た商人たちは故郷に帰って、立派な家屋や祠堂を建て、文教事業に投資し、宗族の後輩に勉強させて官途に就かせようとしたのである。すなわち、徽州商人は経済と物質の両面から宗族を支えるといえる。

巨額の富を得ることのできた徽州商人は揚州、杭州、蘇州などの大都市で商売し、そこで豊かな生活を手に入れ、贅沢な生活様式を故郷に持ち帰った。徽州の上層社会に見られた「贅沢婚」の風習も、そうした背景の下で形成されたと見ることができる。

二 『夫栄子貴』の概要

『夫栄子貴』は女性側が結婚に関する往來の贈り物と金銭を詳しく記録した帳簿である。記録した時間は五月二十七日から来年の八月十三日までであり、何回により作成した帳簿である。

『夫栄子貴』の初めに「同治三年歲次甲子夏月立」と記し、帳簿を始める時間と見なされる。「蕙芳字塌田」と「丙午年四月念四日戌時建生」から、嫁の名前が「蕙芳」であり、道光二十六年(1846)に生まれ、結婚する時が18歳であり、実家が「塌田」であったことがわかる。

『夫栄子貴』は女性側が結婚に関する往來の贈り物と金銭を詳しく記録した帳簿である。女性側の帳簿であっても、名前は「夫栄子貴」であり、嫁については、全然言及していない。嫁になっ

た女性も夫が出世し、息子が上品になるようにという願いだが、夫婦関係、女性の気持ちについて言わなかった。伝統の中国の思想により、嫁の幸せは夫婦良好な関係によって感じるものではなく、立派な主人と息子に恵まれることである。男尊女卑の思想では、女性は地位が低く、男性に従属するのである。

本論は結婚の贈答について研究するゆえに、帳簿に贈答品を運ぶ運賃があり、活字化にもしたが、ここではこれについては割愛し、結納品と嫁入り道具及び礼金について詳しく分析する。

1. 同治三年歲次甲子夏月立	34. 小門礼 二金	67. 大門礼 二金
2. 蕙芳字竭田	35. 送親礼 四金	68. 小門礼 一金
3. 庚帖 丙午年四月念四日戌時 建生	36. 門門礼 一金	69. 送親礼 二金
4. 五月二十七日送單往男宅	37. 乳母担 八金	70. 門門礼 一金
5. 万福之源 吉開	38. 福首担 成肩	71. 乳母担 四金
6. 送福履	39. 旺 相 二十対	72. 福首担 成肩
7. 履 儀 二十四金	40. 餘 慶	73. 旺 相 二十対
8. 菓子担 双肩	41. 六月初十日収男宅回單	74. 餘 慶
9. 鮮 肉 四十觔	42. 文定厥祥	75. 男宅開發月老送單
10. 鮮 魚 二十觔	43. 吉 定	76. 錢三十六文 加頭面吃 茶 二盃 酥糰六個 糕
11. 三 元 一百二十斤	44. 礼 儀 十金	77. 自給月老送單
12. 行 聘	45. 喜 盒 満肩	78. 錢三十六文 茶二盃
13. 礼 書 四十双付	46. 行 聘	79. 桂月念一日 送福履
14. 書 套 一百六十金	47. 礼 書 二十双付	80. 男宅來盒満肩
15. 花 紅 十二金	48. 書 套 八十金	81. 糕一盒 肉四斤一盒 寿桃 五盒（每盒）六十（個）計 三百個
16. 首 飾 全福	49. 花 紅 六金	82. 魚代一盒 二主三百文 当 収一回一
17. 大 担 十六金	50. 首 飾 全福	83. 洋蛸十全
18. 鮮 肉 六十斤	51. 大 担 八金	84. 開 發
19. 鮮 魚 四十斤	52. 鮮 肉 四十斤	85. 盒力三百二十 代食六十 喜封六十 儀力二百四十
20. 三 元 一百二十斤	53. 鮮 魚 二十斤	86. 茶四盃 桃酥 麻片 紅棗 糕 加頭面一碗 寿桃六個
21. 冠 筭	54. 三 元 六十斤	87. 当回盒満肩
22. 茶 儀 十二金	55. 冠 筭	88. 糕一盒 魚一盒 紅蛋百子
23. 菓子担 八金	56. 茶 儀 六金	89. 寿桃三盒六十 小官寿桃二 盒 計二十四双
24. 迎 娶	57. 菓子担 四金	90. 男宅給月老洋一元
25. 大 担 十六金	58. 迎 娶	91. 茶四盃 折面錢五十二文 寿桃十二個
26. 鮮 肉 六十斤	59. 大 担 八金	
27. 鮮 魚 四十斤	60. 鮮 肉 四十斤	
28. 三 元 一百二十斤	61. 鮮 魚 二十斤	
29. 喜 蛋 二百元	62. 三 元 六十斤	
30. 紅 燭 六十斤	63. 喜 蛋 一百元	
31. 花 紅 十二金	64. 紅 燭 三十觔	
32. 公堂礼 十二金	65. 花 紅 六金	
33. 大門礼 四金	66. 公堂礼 六金	

92. 俵本房親友 時建生 一合(盒) 魚一合 紅蛋百元
93. 堀田 汪五爺 壽桃六十個 肉二斤 122. 一坤造丙午年四月念四日戌時建生 148. 開發 另挑合一名 給麵三元一雙
94. 載之兄 壽桃十二個 123. 一行聘乙丑年二月初五日申時批庚大吉 149. 盒力三百二十 喜封六十代食六十
95. 西溪 汪宅 又二十個 124. 一迎娶選乙丑年二月十一日丁丑日初十夜 150. 老爺、奶奶喜封一百二十
96. 長林橋 大姑奶々 又二十個 125. 丑時發轎 151. 給茶四盃 麵二碗 壽桃二雙
97. 羅田 五姑奶々 又二十個 126. 俵壽桃 152. 月老下堀田到喜 給喜封六十 代麵 三十六 茶四盤 太史餅 芝麻糕 糕包
98. 羅田 三太爺 又二十個 127. 堀田汪五爺 三十個 153. 四月三十日上頭
99. 羅田 又另 又二十個 128. 汪載之 八個 154. 堀田汪宅 給茶四盤 茶盒二元 糕 魚代三百
100. 杏姑 又八個 129. 鮑授兄 四個 155. 盒力八十 代麵二十四 喜封六十六)
101. 東苟奶 又十二個 130. 姨 太 六個 156. 送来旺相十二对 四季衣青小袄
102. 姨太 又十二個 131. 家人用 男每四個 女每個 157. 紅燭二斤 芋頭二对
103. 兆華司 又八個 132. 另選大婚吉日 158. 力六十文
104. 春和元妹 又四個 133. 一乾造甲辰年三月初一日卯時建生 159. 俵親友三元
105. 鮑授翁 又四個 134. 一坤造丙午年四月念四日戌時建生 160. 堀田汪五爺 二合 三元十二双 肉二斤
106. 二、三相 每六個 又十二個 135. 一行聘乙丑年四月初二日寅巳時批庚大吉 161. 汪載汜 四双
107. 大、二小娘 又十二個 136. 一上頭乙丑年四月三十日丑寅巳時冠笄大吉 162. 西溪 汪善述堂 六双 力一百二十 麵二十四
108. 綠華 137. 一迎娶乙丑年五月初二日初一夜丑時發輿 163. 梅村 葉宅 四双 力四十
109. 家用人 男二女四 又二十四個 138. 四月初二日行聘 164. 長林橋 大姑奶奶 壽桃三十 力四十
110. 月老順姑 又十二個 139. 堀田汪宅 165. 羅田 五姑奶奶 四双 力四十
111. 堀田老四 向伊借小官壽桃印 送八個 140. 來盒壹屑 糕一 肉四斤一(合) 代魚四百 当回二百饅頭五盒 166. 三太爺 四双 力十八
112. 十二月十八日送年節 日子單 141. 日子書 一封 167. 又 另 四双
113. 堀田汪宅 142. 礼書 二十封 168. 八太爺 四双 力十八
114. 來盒六元 糕一盒 又一盒(代二主每二百) 肉一盒 米壽桃三盒(每盒六十個) 143. 筆墨匣一对 収一個回一個 169. 九太爺 四双 力十八
115. 代年花洋一元 144. 首飾 170. 姨太 二双
116. 日子單放糕上 145. 珠花傘一对 迎花一对 耳川一对 排潔一对 金戒子一对 赤金鐲一对 171. 月老 二双
117. 当回糕一盒 魚一盒 146. 洋錢 三十番 当望回 172. 兆華司 壽桃十二個
118. 開發 盒力二百四十 代食六十 喜封六十
119. 代面二十四 代茶三十六 花封三十
120. 詳選迎娶行聘吉日
121. 一乾造甲辰年三月初一日卯

173. 東苟奶 二双
174. 五月初一日興
175.
176. 汪宅來挑
177. 子孫桶一付
178. 自送去一担
179. 伊宅開洋一元 茶四 麵一
180. 彩輿 一乘
181. 宮燈 四名
182. 高燈 四名
183. 旺相 四名
184. 火燎 二名
185. 燈不(盞) 一名
186. 看輿 二名
187. 照應 一名
188. 下書 一名
189. 送親札洋 一元
190. 門門札 錢一百六十文
191. 下書札 錢一百六十文
192. 菓盒一個 給輿官酒□□□
折幣錢二十四文 □□男宅
自開
193. 送茶料盒一担 紅蓮二包
紅棗二 黑棗二 花生二
桂元二 糖二
194. 開業盒力二百四十 喜封
九十六 代食六十
195. 小輿一乘 送順姑至竭田侍
姑娘
196. 交親帖一付交月老
197. 男宅開發車金□八十 喜封
九十六 代食百二十 麵□
198. 自給輿祝錢四十八文
199.
200. 望娘盒
201. 蹄一只六斤 酒十手
202. 開力一百二十 代食六十
喜封六十 代麵二十四 茶
十六 代蛋四十
203.
204. 三朝送茶料盒二担
205. 米粉肉元四盒八十個 厥
(蕨)粉肉元二盒四十個 元
酒
206. 盒六元 壽桃二 糕一 魚
一 茶料二
207. 蜜棗茶一架 茶籽油一鎰
208. 煙筒一支 煙一斤
209. 藍(籠)一只
210. 元酒一百八十 合力
一百八十 茶封六十 煙筒
封三十六
211. 油麵三十六 姑爺姑娘喜封
一百九十二 綵喜封九十六
代食九十六
212. 藍力二十 茶四盃 麵吃
213. 竭斗米一斗 做肉元八十個
厥(蕨)粉六斤四十個
214. 接回門
215. 開發
216. 眷生帖一付
217. 又夾單一個
218. 謹詹八月十三日恭通
219. 文旌 恕不莊啓
220. 盒二元 代魚三百 糕一盒
221. 收回力 六十 敬使六十
麵二十四 茶十八
222. 子婿帖双付 眷弟三付
223. 眷侍生一付 襟弟 一付
224. 老二房 老三房 均用帖
225. 老四房 在江西
226. 八月十三日 接回門
227. 輿二乘 橋夫四名 發貴等
去
228. 到男宅接姑爺姑娘
229. 眷生帖一付 又夾單一個
230. 恭迎
231. 文駕 恕不莊啓
232. 男宅開發
233. 敬使八十 代食四十八
喜封四十八 麵二十四 茶
十八
234. 又開業輿夫
235. 輿金八百 喜封一百九十二
代食一百九十二 麵九十六
茶七十二
236. 男宅送来盒一肩
237. 盒六元 肉二斤 代魚
三百 方糕一盒 壽桃三盒
二十四双
238. 另送姨太提盒一個 肉二斤
月餅二斤 姨太自開發
239. 又遞手提盒一個 付□百□
葱管糖八十根
240. 開發盒力一百八十 喜桃
四十八 代食四十八 代麵
二十四 代茶十八
241. 又提力六十
242. 男宅送来 茶桃四個?六十
喜桃二十四個?四十八
243. 姑爺到門 子婿帖一付 該
用二付 謝酒帖一付
244. 拜帖
245. 子婿双付 眷弟三付 眷侍
生一付
246. 以上全帖 自家
247. 老二房 三太爺 姪孫婿一
付 姪婿二付
248. 老三房 五房 姪婿一付
249. 七房 姪孫婿一付 姪婿三
付
250. 八房 姪孫婿一付 姪婿四
付
251. 九房 姪孫婿一付 姪婿二
付
252. 老四房在江西
253. 西溪汪達三姑爺 襟弟帖一
付
254. 以上用夾單
255. 二房三太爺送来茶四盃

256. 鷄子十個 月餅二個 桂圓一盒 棗一盒
257. 茶封六十 喜桃四十八
258. 回帖一付
259. 眷侍教生許士泰率子侄孫等頓首拜
260. 姑爺到門 陪客 汪達三婿少梅
261. ……
262. 夜席 八碗十二碟兩点 一席
263. 魚翅 海參 燒蜆干 鷄煨栗
264. 煨蹄包 火笋 魚肚 尾魚
265. ……
266. 三房九太爺
267. 送來茶四盒 鷄子十個 包一盒 厚糕 麻片糖
268. 回帖一付
269. 姻侍許世傑率子侄孫姻教弟悌、悦、快曾同頓首□
270. 發去茶封六十 喜封四十八
271. 三房七太爺八太爺
272. 送茶四盒 糯米糍 糕 桃酥 条糖
273. 回帖一付
274. 眷侍教生許世昌、士漁率子侄眷侍生应曾、读曾、壁曾、述祖、念曾、庆曾孫眷弟恩熙照陰
275. 發去喜麵四十八 茶桃六十
276. 姑娘發出手拜錢每二百文
277. 三相 綠華 榮華 荷生
278. ……
279. 男宅給發賞封各項洋一元
280. 男宅跟客一名
281. 開發敬使二百四十 代席二百四十
282. 總喜封三百 茶四盒 麵
283. ……
284. 開發與夫四名
285. 興金八百 喜封百九十二 代食百九十二 代茶七十二 麵吃
286. 十四日
287. 送回門盒一肩
288. 肉三斤 代魚二百 糕六包 茶一盒 米寿桃二盒 一百二十個
289. 外提籃一只 通手 棗糕 八十一 米食 八十個
290. 又姨太另送提盒一個
291. 拜錢洋二元老爺 奶奶出手
292. 又送中秋節盒一肩 魚代錢二百 糕一盒上托花月餅大小十個 葷月餅四斤 米寿桃三盒一百八十個 北瓜一個
293. 回拜帖 眷弟三付 許兆松、椿、桓
294. 內姪一付 許文炳
295. 襟弟一付 汪本德
296. 八月十三日 酬主媒汪五爺
297. 魚翅一碗 蜆干一碗 海參肉元一碗 蹄包一碗 兩点心 粽二十四件 洗砂米糖三十件
298. 收回力 二百四十 麵二十四
299. 珠翠吉慶一支 珠十六
300. 珠艮（銀）辺花一對 珠十立（粒）二元四角
301. 珠翠花方一支 又珠七立四錢四 一元二角
302. 又絨冠七立一品 十八兩二元五錢二分
303. 又芙蓉花簪一對 七兩九角八分
304. 又灯球 一支 十八兩二元五角
305. 又瓢結 一支 珠十四立八錢
306. 又挖耳 一支 珠八十立二元四角
307. 又落套川（釧）一對 珠一百零立（粒）三元八角
308. 又級球 一支 大六立六十四立一元
309. 又套川 一對 百四十立五元
310. 鍍金扁方 一支 九錢一元六角
311. 又元鐲 一双 二兩三錢三元四角
312. 又藤鐲 一双 一元四角
313. 又挖耳 一支 二錢七分六錢
314. 又連環 一支 三錢二珠三立 八角
315. 又戒子 二付 五錢一元
316. 又花瓢 一支 二錢五角
317. 赤金別簪 一支 五錢十元
318. 赤金耳川 一對 二錢四元
319. 赤金套川 一對 珠六立二元二角
320. 鍍金川 一對 二錢二分
321. 又飞 一錢 一對 四角
322. 脂玉別簪 一支 八角
323. 又挖耳 一支 一元
324. 又川 一對 八角
325. 瑪瑙戒子 一個
326. 西□又 一個 七元四角
327. 鍍金牙杖 一付 三錢四七角
328. 脂玉扇墜 一個 四角
329. 鍍金花千 一對 八分 二

角四分
 330. 叉艮 (銀) 針 一根 五分 一角
 331. 瑪瑙簪 一支 銀一錢二分 八角
 332. 松扇 一柄
 333. □□ 一付 一元四角
 334. 共五十六元一角四
 335. 錫燭台 一對
 336. 叉灯台 一支 六角
 337. 叉瓜戔粉庄 一個 四角
 338. 紅木梳箱 一個 一元四角 五
 339. 叉元□□ 一面 三錢
 340. □油綿合 一個 一錢
 341. 同 (銅) 盆 一個 四錢五
 342. 硃漆灯盃 一支
 343. 百子生桶 一付 二元四角
 344. 元絨双梁之靴 二双
 345. 元緞双梁 又一双 二元
 346. 梳子箒篋□一付 一角
 347. 銅灯盃頭 二個 一角
 348. 一三硃□ 一個 三角
 349. 共洋八元二角
 350. 大紅印洋布 一床
 351. 扣月掛 二件
 352. 白布短卜 二件
 353. 藍洋布褲 一對
 354. 鴛鴦枕頭 一對 大紅七寸 洒枕
 355. 紫布褲等 一付
 356. 水盆衣 一件
 357. 紅布袋 三只
 358. 洋台膝衣 四双 三元
 359. 大紅羅 (膝衣) 二双
 360. 布 二双 二角五
 361. 梳頭盒 一對 漆一百 六

角
 362. 三十糕 二盒
 363. 藍洋布包袱 一個 三角
 364. 二六席 一床 三角
 365. 小洋 二塊放新人袋
 366. 共四元四角五
 367. 大紅印洋布被面個 七百八十
 368. 元夾金綉邊 四尺 四百
 369. □□帶 四尺 八十
 370. 城白 三丈五尺八 九百八十
 371. 大紅七寸枕丁 一付 六百
 372. 肖白 八尺七寸 三百零四
 373. 巴白 一丈一尺二 三百六十二
 374. 毛砂綠 四尺八寸 一百九十二
 375. 余藍 一丈一尺二寸 三百五十八
 376. 余紫 一丈五尺六寸 四百九十九
 377. 白標 七尺 二百八十
 378. 余藍 四尺 一百二十八
 379. 叉白 一尺 二十八
 380. 細頭繩 二丈 二十
 381. 蘇月 二疋 一千五百二十
 382. 叉 七尺五寸 三百
 383. 斗青 四尺四寸 一百九十四
 384. 元鳳帶 二丈七寸 二百十六
 385. 大头扣 二付 三十六
 386. 藍洋布 九尺 六百七十
 387. 斗青 一尺 四十四
 388. 元办 七尺二寸 六十四
 389. 余白 三尺四寸 九十四

390. 城白 二尺五寸 七十
 391. 叉紅 一丈零五寸 三百三十六
 392. 楊白 一丈八尺 四百八十六
 393. 余白腰 一個 紫褲 四十六
 394. 楊白 三丈五尺 一千零五十
 395. 斗青 四尺 一百七十六
 396. 元办 二丈七尺 二百四十三
 397. □扣 二付 三十六
 398. 布寸 二張 二十四
 399. 宝洋布 二尺八寸 包袱 二百十
 400. 代付銀匠 一千一百二十
 401. 粗頭繩 一丈七尺 五十一
 402. 上屯買雜貨一 一千五百七十
 403. 綠扣 一錢 五十二
 404. □上 六百
 405. 花鬚 一個 一百二十
 406. 裁縫工 二千一百
 407. 銀匠 補翠燒金 一千八百
 408. 共十八千八百七十三文
 409. 親眷送嫁
 410. 汪五爺 盒二元 染包四 礼 篋四 漆扇一
 411. 大姑奶々 草染包 二個 花生二 棗二 花 (生) 二 燕尾二 篋四 粉
 412. 西溪大姑娘 草染包四 花生 棗
 413. 姨太 草染包二 花生 棗 羅田方宅 草染包二個 花生 糖棗 絨花 草花

三 帳簿から見る徽州の結婚

1 徽州における伝統的な結婚式

中国の伝統の正式的な結婚は「納采」「問名」「納吉」「納徵」「請期」「親迎」の六つの儀礼を行う。時代の変遷により、各段階の内容が些か合併、簡略化し、いろいろな呼び方があったが、漢民族は二千年も儀礼の流れにより結婚式を続けた。

徽州地区は儒教の文化圏であり、礼のことを重要視し、庶民でも結婚の儀礼に則った結婚式を行った。

清末、中華民国時代に休寧県では新式と旧式の二つの結婚式があったが、簡単な儀式を行なった文明結婚が少なく、多数の人が煩雑な旧式を行う。

①請庚：仲人が両家庭に結婚の話を持ち掛け、女性の生年月日時を求める。

②合婚：男性側は女性の生年月日時を書いた紙を台所の「灶司亭」（かまど神を祭るずし）に置き、三日間にお皿やお椀が割れなく、お箸やひしゃくが紛失しないと吉と言われ、そして二人の生年月日時を占い師に占ってもらう。合った場合は男性側から三世帯の名前、身分を女性側に教え、女性側も同じ情報を返す。合わないとは女性の生年月日時を返す。

③行聘：女性側は赤紙の求めた物のリストを記した礼単を男性側に渡す。男性側は礼単により、縁起が良い日に贈り物を贈る。男性側は二人の生年月日時により、結婚日を決め、仲人が女性側に伝える。

④婚期：男性側が嫁の結婚の服とアクセサリーを女性側に送ることは「上頭」であり、嫁入り道具を婚家に送ることは「陪嫁」と呼ばれる。男性側は提灯、御輿を準備し、嫁を迎えたが、婿が自ら行かない。婚家に二人が天地、両親、夫婦の間に儀礼をしてから、嫁が交替で地面に敷いた二つの袋「接袋」を踏み、新郎新婦の部屋へ導かれた。ナツメ、ピーナツ、竜眼、ハスの実を新郎新婦のベッドに蒔きながら、縁起が良い話を言った。夜、たくさんの人は新郎新婦の部屋で「吵房」し、新婚夫婦二人をからかった。翌日嫁は台所へ行き、料理を作りぶりをしてから、舅姑と年上の親戚に挨拶し、「拝見銭」をもらった。ここまで結婚の手続きが終わり、真の夫婦になり、新しい家ができた。

⑤回門：嫁になった後、初めて婿と一緒に実家に戻るのは回門であり、三日間、或は一ヶ月後に戻った。

2 帳簿の結婚の流れ

見やすいため、『夫栄子貴』に記録された日付により、結婚の流れを整理した。

表1 結婚の流れ

①	N O.4 ~ 40	5月27日	男性側	←礼単	女性側		女性の親友
②	N O.41 ~ 74	6月10日		→回単			
③	N O.79 ~ 91	8月21日 送福履、吉定		→糕一盒、肉四斤、寿桃五 盒三百個、魚代、金十元 ←糕一盒、蛋百個、寿桃五盒、 魚一盒			
④	N O.92 ~ 111					→寿桃	
⑤	N O.112 ~ 125	12月18日 送年節、日子 単		→盒六元(糕二盒、肉二盒、 寿桃六十個)年花代一元 ←糕一盒、魚一盒			
⑥	N O.126 ~ 131					→寿桃	
⑦	N O.138 ~ 152	4月2日 行聘		→盒一肩(糕、肉、魚、饅 頭)、日子書、礼書、筆墨匣、 首飾、金三十元 ←盒(寿桃、糕、魚、蛋)			
⑧	N O.153 ~ 158	4月30日 上頭		→茶盒(糕、魚)、旺相、服、 燭			
⑨	N O.159 ~ 173					→三元	
⑩	N O.174 ~ 203	5月1日 發輿		→子孫桶、送親礼、門門礼、 下書礼、菓盒、茶料盒、 望娘盒 ←自送去一担			
⑪	N O.226 ~ 285 N O.296 ~ 298	8月13日 回門		→盒、姨太提盒、通手提盒、 茶桃、喜桃、帖	女性側	→仲人汪五爺 へお礼 ←親眷送嫁(嫁 入り道具)	
⑫	N O.286 ~ 295	8月14日 回門		→回門盒、提籃、中秋節盒		←提盒(姨太)	

①と②は結婚における男性側から女性側に送った必須品と贈答品に関する談合である。「礼単」は女性側が赤い紙に書いた男性側へ請求した贈り物のリストである。五月二十七日に男性側へ礼単を送り、その二週間後、六月初十日に男性側から礼単への答え「回単」をした。

③、⑤、⑦、⑧、⑩は回単の項目により、結婚の各段階で贈答品を送った。「→」は贈答の流れの方向を表す。吉定、送日子単、行聘、發輿の四つの項目に、女性側は贈り物を受け取った後、その中に糕と魚を全部返した。魚一匹が「有頭有尾」(尾頭付き)、最初と最後をしっかりとまとめるを象徴し、糕と魚を全部返すのは「有頭有尾步步高(高と糕と発音が同じ)」という意味である。

男性側からたくさんの寿桃など縁起が良い食品をもらい、女性側の家族が食べられるわけではなく、④、⑥、⑨に「本房親友」へ配った。

⑪、⑫は里帰りに女性側と男性側及び女性側親友の間の贈答往来であった。

3 礼单と回单

帳簿の記録により、ほぼ両家族間に贈答の往来・嫁入り道具のリスト・女性側と親友の贈答往来の三つの部分に分けられる。

①と②に礼单と回单を比較ため、以下の表を作った。

表2 礼单と回单

		礼单	回单	
送福履 *・吉定	履儀 *	二十四金 *	礼儀	十金
	菓子担 *	双肩 *		
	鮮肉	四十觔 *	喜盒 *	満肩
	鮮魚	二十觔		
	三元 *	百二十斤		
行聘	礼書 *	四十双付	二十双付	
	書套 *	百六十金	八十金	
	花紅	十二金	六金	
	首飾	全福	全福	
	大担 *	十六金	八金	
	鮮肉	六十斤	四十斤	
	鮮魚	四十斤	二十斤	
	三元	百二十斤	六十斤	
冠弁	茶儀	十二金	六金	
	菓子担	八金	四金	
迎娶	大担	十六金	八金	
	鮮肉	六十斤	四十斤	
	鮮魚	四十斤	二十斤	
	三元	百二十斤	六十斤	
	喜蛋	二百元 *	百元	
	紅燭	六十斤	三十斤	
	花紅 *	十二金	六金	
	公堂礼 *	十二金	六金	
	大門礼 *	四金	二金	
	小門礼	二金	一金	
	送親礼 *	四金	二金	
	門門礼	一金	一金	
	乳母担 *	八金	四金	
	福首担 *	成肩	成肩	
	旺相 *	二十対	二十対	

① フォームに出た贈物の説明

送福履：「送鞋様」とも言われ、婿と婿の親の靴のサイズを女性に教えること。

履儀：送福履とともに女性側に送るお礼(金銭或は贈答品)である。

二十四金：「金」は金銭の単位である。古代から中国に「銀両」と「銅銭」二種類の金銭が流通し、

銅銭と銀両の為替は大体銀 1 両 = 銅銭 1200 ~ 1500 文であり、本文に 1200 を基準として計算する。

菓子担：一担のお菓子。担は計量単位であり、昔の人は天秤棒で二つの籠に掛けた荷物を一担と計る。

双肩：一肩 = 一担。

四十觔：觔 = 斤。

喜盒：糕、豚肉、魚、寿桃などを入れる盒であり、計量単位として贈物を計算する。

三元：鶏の卵とアヒルの卵。

礼書：招待状。

書套：招待状の封筒。

大担：菓子担と同じ、贈物の計量単位であり、豚肉、お米、鶏などを入れる籠二つを天秤棒で担う。内容物と量により、価値が違う。

二百元：蛋の計量単位、= 個。

花紅：方言の故に、まだ分らない。

公堂礼：祠堂に差し上げる金銭。

大門礼：嫁の家に入るためあげる金銭。

送親礼：嫁を送る女性側の人にあげる金銭。

乳母担：嫁の母への贈物。

福首担：大担と同じ、内容物により、呼び方が違う。

旺相：トーチ。

② 各項目の意味

宋時代に朱熹は『朱子家礼』に正式的な結婚六礼「納采」「問名」「納吉」「納徵」「請期」「親迎」を「納吉」、「納幣」、「親迎」の三礼にまとめた。

柯の分析により、元々礼単に「締首」「行聘」「期書」「冠笄」「謁庙」「迎娶」の六つの項目があったが、「冠笄」と「謁庙」に送ったものが少ないため、清末からだんだん省略されてきた〔柯 2003：178〕。

締首は納吉と同じ意味であり、女性側は贈物を受け取ったら、婚約が決めること。行聘は即ち納徵であり、結納金と結納品を送ること。期書は結婚日を女性側に伝えること。冠笄は元々女性が大人の髪型に変わり、大人になると象徴する。だんだん単独な成人式が消え、嫁になり、家を出る前に、顔のうぶ毛を刈ったり、髪型を変わったり、化粧したりし、冠笄の儀礼を行い、成人になり嫁に行くという意味である。「謁庙」は女性側が結婚の日付を祠堂に申し上げ、占うことである。もし不吉だったら、再び他の日を選ぶ。「迎娶」は嫁を迎えること。

「夫榮子貴」は初頭の回単に「吉定」、「行聘」、「冠笄」、「迎娶」の四つの項目が記された。後ろに「吉定」、「送日子単」、「行聘」、「上頭」、「發興」という流れで儀式を展開した。

結婚六礼、簡単化した三礼、徽州の結婚の流れ、柯の分析、回単に決まった儀礼及び実行の流

れをまとめ、表を作った。各段階の言い方はそれぞれ違いが、意味がほぼ同じである。

表3 結婚項目の比較

六礼	三礼	徽州の結婚の流れ	柯の分析	礼単に決まった儀礼	実行した儀礼
納采		請庚			
問名					
納吉	納吉	合婚	締首	吉定	吉定
納徴	納幣	行聘	行聘	行聘	送日子単
請期			期書		行聘
親迎	親迎	婚期	(冠笄)	冠笄	上頭
			(謁廟)		
			迎娶	迎娶	發輿
		回門			回門

納采と問名は準備の段階であり、贈物をして、膨大な費用をからない。納吉から縁起が決まり、結納金と結納品を支払う段階になり、帳簿にも納吉から記した。

八月二十一日の「吉定」とともに、男性と両親の靴のサイズを女性側に送った。「吉定」は六礼の「納吉」と同じ意味で、男性側はお菓子、魚、お肉などを送り、「小定」とも呼ばれる。男性側が結婚日を書いている日子単を正式に女性側に渡し儀式「期書」は、帳簿に単独の項目にしなかったが、十二月十八日にお正月の贈与とともに、日子単を女性側に送った。しかしその後、結婚日付を再選し、二ヶ月と延ばした。男性側が選んだ結婚日は女性側に縁起が悪い日であったのか、或は結納品を準備する時、何か起きているのかと推測した。

「行聘」は「二接」と通称され、回単に決まった贈り物を全部女性側に送った。男性側が贈与した食物を女性の家族は「本房親友」それぞれに送った。「吉定」の「小定」に対し「行聘」は「大定」である。家庭の経済状況により、「小定」をしないまま直接に「大定」を送る人もいるし〔柯2003:178〕、小定と大定を一緒にする場合もある。経済状況が良くない男性は「小定」をした後、「大定」を負担できない時に、結婚相手を盗み、盗み婚をした。

上の表により、徽州地区における結婚式は六礼を則り行う。これは儒教を大切にする風習と関連していた。「実行」の列には「送日子単」が「行聘」の前に行われ、儀式が二つ、三つの項目に纏め、簡略化した。儀礼を則り、結婚を行うことが大切だが、金銭や労働力を考える上で、民衆は便利のため、六礼を簡単化し、宋時代、朱熹も『朱子家礼』に六礼を「納吉」、「納幣」、「親迎」の三礼にまとめた。婚約するから結婚までの時間を縮めるか、贈り物の量を減らすか、それは断言できないが、回数を減らし、手続きが以前より簡略になっていた。正に民間の結婚儀式が時間や経済の状況により、「与俗懸殊、且有適相反者」陳1990:7〕である。

賈公彦疎は「未ト時、恐有不吉、婚姻不定、故納吉乃定也」と言う〔陳2004:171〕。生年月日時を占わない時、不吉の場合があるので、婚約がまだ決められない、故に納吉から婚約が決まる。高価な物を受取るということは「共同関係を締結したいという意志、またかかる関係を持続

したいという意向を示す」〔モース 1962：85〕。生年月日時の合うことがただの条件であり、肝心なことは男性側の贈与を受けることだろう。贈物を「受取ることによって生ぜしめられる法的状態を表している……取引が結ばれたものと見なされる」〔モース 1962：85〕。両家庭における贈物の交換は結婚儀式的各段階を安らかに進める上で、結婚と言う契約を順調に履行できることの保障と考えられる。

③ 内容の比較

比較すれば男性側が「礼単」に「首飾」「門門礼」「福首担」を除き、「鮮肉」が三分の二、「送福履」においては女性の要求に対して五つの求めが「吉定」の二つと、他のものは全部半分まで減らしている。論文、著書に結納品について、男性側から女性側に送ったものと説明したが、結納品の内容と数量はどう決まるのか。『夫栄子貴』に記録した男性側が礼単を半分まで減らすということが始めて見えてきた。なぜ半分まで減らした結納品も女性側は受け取るのか。女性側は男性側が半分まで減らすということを知るからこそ、高い結納品のリストを作成すると考えられる。徽州地区は商業の雰囲気強く、結納品を送る時、駆け引きのような行為を行い、男性側は結納品を決める権力を持ち、面子を保つ、女性側は適当な結納品をもらい、双方有利の結果ではないかと推測する。しかしただ一件の古文書では個人行為か社会風習か判断しにくいと思われる。他の「回単」に結納品を書き上げた紙に書き加える様が多い。例えば、『民国十五年歲次壬戌仲夏月シャ県石門懷徳堂礼単』である。単に男性側が書き忘れただけではなく、女性側が「回単」を見て不満が出て、贈り物をもっともらおうと考えるのではないか。

礼単の贈り物は「乾礼」「非乾礼」と二種類がある。「乾礼」は金銭であり、同治、光緒に 64 元、光緒二十年以降、84 元になり、中華民国時代に 120、140 元になった。「非乾礼」は豚肉、饅頭、糕、蛋などの食物であり、豚肉が最初の 64 斤から 140、160 斤まで増えて、他の物も増加している〔卞 2005：162〕。小定の時、仲人は乾礼数元と非乾礼の一部分を女性側に送り、縁起が良い日に行聘を行い、余った部分を全部送った。吳梅顛の『徽城竹枝詞』に「納采問名為通手，嫁裏粽饋男家。郎官粽独大如枕，枣栗金蹄多好些」という文がある（納采問名の時、男性側は一部分の贈り物を贈り、女性側は粽を返す。婿に上げた粽は枕のように大きい、棗、栗、火腿（ハム）は多ければ多いほど良い）。聞き取り調査に 88 歳の呉さんも粽のことを言及し、「お返しとして嫁側は婿側に粽を送った。一担（50 斤）の粽に枕のような大きいのが 6 或は 8 個、他は小さい粽だった。小さい粽を男性側の隣人や親戚に送った。粽の具は肉とアン二種類であった」。

4 嫁入り道具

「夫栄子貴」の後半に N O.301～409 は嫁入り道具である。

百件のものを統計し、A アクセサリー類、37 件、56.41 元；B 衣服類、39 件（服 8 件、布 26 件、ボタン 3 件、靴 2 件）；C 生活用具 19 件（寝具 5 件を含む）；D 手間代 4 件、8.9 元；E 金銭 2 元；F 読み不可と分類した。

表4 嫁入り道具

NO.	モノ	数量	特徴	重量	価格	類別	注
299.	珠翠吉慶	一支	珠十六			A	髪飾り
300.	珠良（銀）辺花	一對	珠十立		二元四角	A	髪飾り
301.	珠翠花方	一支	珠七立	四錢四	一元二角	A	髪飾り
302.	絨冠	一品	七立（粒）	十八兩	二元五錢二分	A	髪飾り
303.	芙蓉花簪	一對		七兩	九角八分	A	髪飾り
304.	灯球	一支		十八兩	二元五角	A	髪飾り
305.	瓢結	一支	珠十四立		八錢	A	髪飾り
306.	挖耳	一支	珠八十立		二元四角	A	髪飾り
307.	落套川（釧）	一對	一百零立珠		三元八角	A	腕輪
308.	級球	一支	大六立 六十四立		一元	A	髪飾り
309.	套川	一對	百四十立		五元	A	腕輪
310.	鍍金扁方	一支		九錢	一元六角	A	髪飾り
311.	元鐲	一双		二兩三錢	三元四角	A	腕輪
312.	藤鐲	一双			一元四角	A	腕輪
313.	挖耳	一支		二錢七分	六錢	A	髪飾り
314.	連環	一支	珠三立	三錢二	八角	A	
315.	戒子	二付		五錢	一元	A	指輪
316.	花瓢	一支		二錢	五角	A	髪飾り
317.	赤金別簪	一支		五錢	十元	A	髪飾り
318.	赤金耳川	一對		二錢	四元	A	ピアス
319.	赤金套川	一對	珠六立		二元二角	A	腕輪
320.	鍍金川	一對			二錢二分	A	腕輪
321.	飛？	一對		一錢	四角	F	
322.	脂玉別簪	一支			八角	A	髪飾り
323.	挖耳	一支			一元	A	髪飾り
324.	川	一對				A	腕輪
325.	瑪瑙戒子	一個			八角	A	指輪
326.	西□又	一個			七元四角	F	
327.	鍍金牙杖	一付		三錢四	七角	C	爪楊枝
328.	脂玉扇墜	一個			四角	A	
329.	鍍金花千	一對		八分	二角四分	A	髪飾り
330.	良（銀）針	一根		五分	一角	C	
331.	瑪瑙簪	一支		銀一錢二分	八角	A	髪飾り
332.	松扇	一柄				C	
333.	□□	一付			一元四角	F	
334.	共五十六元一角四						
335.	錫燭台	一對				C	錫製の蝋燭台
336.	灯台	一支			六角	C	燭台
337.	瓜麩粉庄	一個			四角	C	
338.	紅木梳箱	一個			一元四角五	C	化粧箱
339.	元□□	一面			三錢	F	
340.	□油錦合	一個			一錢		
341.	同（銅）盆	一個			四錢五	C	銅製の洗面器
342.	硃漆灯盃	一支				C	
343.	百子生桶	一付			二元四角	C	おまる
344.	元絨双梁之靴	二双				B	

345.	元緞双梁	一双			二元	B	
346.	梳子箒篋□	一付			一角	C	櫛
347.	銅灯盃頭	二個			一角	C	
348.	一三硃□	一個			三角	F	
349.	共洋八元二角						
350.	大紅印洋布	一床				B	
351.	扣月掛	二件				B	上着
352.	白布短卜	二件				B	上着
353.	藍洋布褲	一對				B	ズボン
354.	鴛鴦枕頭	一對	大紅七寸酒枕			C	
355.	紫布褲等	一付				B	ズボン
356.	水盆衣	一件				B	上着
357.	洋色膝衣	四双			三元	B	上着
358.	大紅羅(膝衣)	二双				B	上着
359.	布	二双			二角五	B	
360.	紅布袋	三只				B	袋
361.	梳頭盒	一對	漆一百		六角	C	化粧箱
362.	三十糕	二盒					
363.	藍洋布包袱	一個			三角	B	風呂敷
364.	二六蓆	一床			三角	C	ゴザ
365.	小洋	二塊	放新人袋			E	
366.	共四元四角五						
367.	大紅印洋布被面 個				七百八十	C	掛布団カバー
368.	元夾金綉辺	四尺			四百	B	レースのよう な飾り
369.	□□帶	四尺			八十	B	帶
370.	城白	三丈五尺八			九百八十	B	布
371.	大紅七寸枕丁	一付			六百	C	クッション
372.	肖白	八尺七寸			三百零四	B	布
373.	巴白	一丈一尺二寸			三百六十二	B	布
374.	毛砂緑	四尺八寸			一百九十二	B	布
375.	余藍	一丈一尺二寸			三百五十八	B	布
376.	余紫	一丈五尺六寸			四百九十九	B	布
377.	白標	七尺			二百八十	B	布
378.	余藍	四尺			一百二十八	B	布
379.	又白	一尺			二十八	B	布
380.	細頭繩	二丈			二十	B	髪飾り
381.	蘇月	二疋			一千五百二十	B	
382.	又(蘇月)	七尺五寸			三百	B	
383.	斗青	四尺四寸			一百九十四	B	布
384.	元鳳帶	二丈七寸			二佰十六	B	帶
385.	大头扣	二付			三十六	B	ボタン
386.	藍洋布	九尺			六百七十	B	布
387.	斗青	一尺			四十四	B	布
388.	元办	七尺二寸			六十四	B	布
389.	余白	三尺四寸			九十四	B	布
390.	城白	二尺五寸			七十	B	布

391.	又紅	一丈零五寸			三百三十六	B	布
392.	楊白	一丈八尺			四百八十六	B	布
393.	余白腰	一個			四十六	B	布
	紫褲						ズボン
394.	楊白	三丈五尺			一千零五十	B	布
395.	斗青	四尺			一百七十六	B	布
396.	元办	二丈七尺			二百四十三	B	布
397.	□扣	二付			三十六	B	ボタン
398.	布寸	二張			二十四	B	
399.	宝洋布 包袱	二尺八寸			二百十	B	風呂敷
400.	代付銀匠				一千一百二十	D	
401.	粗頭繩	一丈七尺			五十一	A	髪飾り
402.	上屯買雜貨一單				一千五百七十	D	
403.	緑扣			一钱	五十二	B	ボタン
404.	□上				六百	F	
405.	花髻	一個			一百二十	A	髪
406.	裁縫工				二千一百	D	
407.	銀匠		補翠焼金		一千八百	D	
共十八千八百七十三文							
合計	銀元 94.19 元						

嫁入り道具の総額は 94.19 元であり、アクセサリーが総額の 60% を占めている。

毛立平氏は曾国藩の話により、清後期で二百元が適当であると考えられる〔毛 2007 : 30〕。しかし、京が遠く離れた徽州では百元の嫁入り道具ですら普通の家庭にとって十分であると考えられる。

嫁入り道具の大部分は嫁の個人用品であり、アクセサリーや服も長年使えられる。実家から持ってきた使い慣れたものは一人ぼっちで知らない所へ嫁に来た女性にとって、緊張感を消し、慰めるものである。

豊かな個人用品に対し、新しい家へ準備したものが少ない。蠟燭台、洗面器、掛け布団カバー、枕など細かい生活用品だけで、家具などもない。中国の各地域に嫁入り道具の構成も違う。徽州地域には新郎新婦の部屋、ベッド、箆筥、椅子などを全部男性側が準備する風習がある。筆者がインタビューした 88 歳のお婆さんの呉さんにより、お金持ちはアクセサリーや服だけではなく、棺までも嫁入り道具にする。うちの娘は嫁になっても、死ぬまで婚家のものを使わないという娘への思いやりで、豊かな嫁入り道具を準備し、嫁が婚家での地位も高くなる。

商売人が多い徽州において娘に豊かな嫁入る道具を準備する風習「贅嫁」がある。清時代の徽州府の「知府」（知事）劉汝驥は『陶甓公牘』に「聘用財或墨銀百圓至二三百圓不等…」、「開一礼単送男家去糜費以二百圓為中数三陋也」（休寧に大量な結納品を請求した風俗があり、二百元が中等で、これは悪習の一つだ）。と記載した。劉汝驥は光緒二十一年の進士であり、徽州府の知府になり、徽州の一府六県の環境や民俗などを詳しく記録している。上の礼単を統計し、結納金二百八十六元を女性側は請求した。そう見ると『陶甓公牘』に記載した話と合っている。しか

し、男性側から戻ってきた「回單」には半分まで減らした。実際に渡した結納金は百四十四元に過ぎない。

嫁入り道具に「洋布」が六回ほど出てきた。「休寧一瞥」に「農村婦女、漸染奢侈、服飾以洋貨為大宗」と記載した。民国二十三年（1934年）に出版された雑誌は農家の女性は贅沢で、服がほとんど輸入品と批判したが、七十年前、同治三年に洋布が一般の生活品より贅沢なブランド品だろう。徽商は故郷を出て、揚州、杭州、南京、蘇州など大都市で商売をして、豊かな生活をし、ますます贅沢になり、清中期にピークになった〔姚 2012：60〕。贅沢なライフスタイルを故郷の徽州に持ち帰った。休寧とシャ県も浙江、江蘇に近く、他の地域よりも贅沢品が簡単に手に入る。清末に徽商がもう衰退に向かったが、贅沢な暮らしぶりはすぐ変えられるわけではない。嫁入り道具の布から清末の徽州の民衆の生活が覗ける。

5 女性側と親友の贈答

帳簿にNO.92～NO.111、NO.126～NO.131、NO.159～NO.173は女性側が男性側から贈物をもらった後、寿桃と三元を配ることである。以下のようなものである。

表5 女性側と親友の贈答のやり取り

	番号	親友の居所	親友	一回目 (寿桃)	二回目 (寿桃)	三回目 (三元)	親友返礼
1.	93 127 160	堀田	汪五爺	六十個 肉二斤	三十個	二合 十二 双 肉二斤	盒二元(染包四) 礼(窰 四、漆扇一、粉)
2.	94 128		載之兄	十二個	八個		
3.	95 162	西溪	汪宅	二十個		六双	
4.	96 164	長林橋	大姑奶々	二十個		寿桃三十	草染包二個(花生二、棗 二)花(生)二、燕尾二、 窰四、粉
5.	97 165	羅田	五姑奶々	二十個		四双	
6.	98 99 166 167	羅田	三太爺	二十個又另 二個		四双 又四 双	茶四盒、蛋十個、月餅二 個、桂圓一盒 棗一盒
7.	100		杏姑	八個			
8.	101 173		東苟奶	十二個		二双	
9.	102 130 170		姨太	十二個	六個	二双	提盒一個 草染包二(花 生、棗)
10.	103 172		兆華司	八個		寿桃十二	
11.	104		春和元妹	四個			
12.	105 129		鮑授翁	四個	四個		

13.	106		二、三相	每六個 又 十二個			
14.	107		大二小娘	十二個			
15.	108		緑華				
16.	109 131		家人人 男二女四	二十四個	男每四個女 每四個		
17.	110 171		月老順姑	二十個		二双	
18.	111	堀田	老四	八個(寿桃 官印の返礼)			
19.	161		汪載汜			四双	
20.	163	梅村	葉宅			四双	
21.	168		八太爺			四双	茶四盒、糯米糰、糕、桃 酥、条糖
22.	169		九太爺			四双	茶四盒、蛋十個、包一盒、 厚糕、蘇片糖
23.		西溪	大姑娘				草染包四個(花生、棗)
24.		羅田	方宅				草染包二個(花生、糖棗) 絨花、草花

本房の親友の居所も記され、ほぼ堀田、西溪、長林橋、羅田に住んでいた。県誌により、堀田、西溪はシャ県の西部に位置し、長林橋、羅田は徽州区の東に位置し、すべての所も近い。男性の汪姓家族は堀田で、女性の家族はシャ県と徽州区の境界で住んでいた。

吉定、送日子単、行聘に、女性側は贈り物を受け取った後、たくさんの食物は女性側の家族だけが食べられるわけではなく、「本房親友」に配り、第一回に送られた300個の寿桃のうち、288個が親友に配った。嫁の家族自宅用を除き、一人記入不明、九人は一回だけ贈物をもらい、九人は二回であり、汪五爺、姨太二人は三回全部もらった。特に汪五爺は、主媒として、8月13日に「酬主媒汪五爺」、正式に汪五爺を感謝するため、フカヒレ、シジミ、豚足、お菓子など高価な物をわざわざ送った。仲人の謝金は男性側が三分の二を負担し、女性側が三分の一、嫁が婚家に入る後、全部払い切った〔柯2003:178〕。堀田の人の話により、清代に親戚関係以外の人は「爺」という名称で呼ばれたら、お爺さんの意味ではなく、官職がある人である。帳簿に年上の男性の親戚が「*房*太爺」と記入した。故に「汪五爺」は役人ではないかと推測した。官職がある人と付き合え、「主媒」と頼むことにより、嫁の家庭は豊かだけではなく、社会地位も高いと推測した。NO.248～NO.253は回門の時、婿から女性側の親戚「二房」「三房」「四房」「五房」「七房」「八房」「九房」に招待状を送った。嫁側の宗族が大きい家族と考えられる。これを見れば、清末に宗族間の交際は人間関係の大部分を占め、友達や隣人の交際が宗族より弱い。交際圏の地域範囲も小さい、交通不便の原因があるが、宗族の人は祠堂を周り、住む習慣がある。

「回門」の時とNO.410～NO.415の「親眷送嫁」に、落花生と棗、縁起がいい物を入れる包み、飴、糕、蛋などの食物を返礼した。しかし、すべての人ではない、親戚だけが返礼をした。他の

隣人や友達の祝い金或は物の記載がない。披露宴で女性側に渡したかと考えている。祝い金、或は物を送らないと、披露宴に参加することができない。村民にとって、結婚の披露宴は一年中にうまいご馳走を食べるいいチャンスである。

披露宴に山の幸だけではなく、フカヒレ、シジミ、ナマコなど海鮮の料理もたくさん出た。山に囲まれた内陸の徽州は海鮮の産地ではなく、沿海部から輸入されたわけである。現在にも高い海の幸は当時の人にとって貴重なものであり、減多に食べられない。一般の家庭で海鮮を披露宴の料理として親友たちにご馳走することはたやすいことではない。

四 むすび

本論は『夫栄子貴』という結婚の贈答と金銭を詳しく記録した帳簿を通じ、清末と中華民国時代に徽州地区の結婚儀式、結婚贈答の項目と内容物、結婚による交際、及び嫁入り道具を詳しく分析した。

帳簿を全部活字化し、番号を付け、日付により結婚の流れを整理した。

まず女性側が結婚贈答を求める礼単と男性側が女性側へ答えの回単について分析した。比較するため、表を作った。回単と礼単に出した結婚の各項目の意味を説明し、六礼、三礼、礼単に記録した項目、実行した項目をと比較した。各項目にリストされたものについて、意味を説明し、結婚における男性の地位が高いという理由で、回単がほぼ礼単に求めたものを半分まで減らすという現象を解釈する。当時の結婚の贈答は食べ物が過半数ということに気づいた。

そして、嫁入り道具を番号付け、分類し、表を作った。嫁入り道具の価値と種類により、嫁の実家は経済状況が徽州に中級以上と推測した。嫁入り道具に数多い贅沢な輸入品である洋布から当時の徽州に民衆の生活を覗く。

最後、女性側と親友の間に贈答のやり取りを整理した。記された地名により、嫁の実家と親戚の居所が分かる。それに親友の呼び方を加え、女性側の人間交際がほぼ宗族に限り、交際圏の範囲が狭いと推測した。

参考文献・論文

- ・マルセル・モース 有地亨訳 『贈与論』 勁草書房 1962
- ・ファン・ヘネップ 綾部恒雄訳 『通過儀礼』 岩波書店 2012
- ・植野 弘子 『台湾漢民族の姻戚』 風響社 2000
- ・劉 汝驥 『陶甓公牘』 安徽印刷局 1911
- ・許 承堯 『歙県閑談』 黄山書社 2001
- ・陳 鵬 『中国婚姻史稿』 中華書局 1990
- ・休寧県地方志編纂委員会 『休寧県志』 黄山書社 1990
- ・柯 靈樞 『古徽州村族礼教鈎沉』 中国文史出版社 2003
- ・唐 力行 『徽州宗族社会』 安徽人民出版社 2004

- ・郭松義 定宜庄 『清代民間婚書研究』 人民出版社 2005
- ・卞 利 『徽州民俗』 安徽人民出版社 2005
- ・王 廷元・王 世華 『徽商』 安徽人民出版社 2005
- ・毛 立平 『清代嫁粧研究』 中国人民大学出版社 2007
- ・朱 基 「休寧一瞥」 徽州日報館 1934
- ・安徽省新運會 「安徽省各県婚喪礼俗迷信習慣之調査及改革意見書」『新運導報』第九期 1937

学界動向

みんぱく国際フォーラム参加記

2015年1月24日(土)・25日(日)の両日、国立民族学博物館(みんぱく)で開催された国際フォーラム「中国地域の文化遺産——人類学の視点から」に参加してきた。

本フォーラムは、みんぱくの機関研究「文化遺産の人類学——グローバル・システムにおけるコミュニティとマテリアリティ」(代表者:飯田卓氏)の研究活動のひとつとして開催されたものであり、中国地域で文化遺産に関する研究をおこなっている研究者が、それぞれの研究フィールドにある人々の生活と密接にかかわる有形・無形の文化遺産をとりあげ、人々と文化遺産の関わりや日常生活への影響などについて、文化人類学・民族学の立場からアプローチした研究についての発表がなされた。

一日目の午前は基調講演として、浙江省・西湖を事例とした世界遺産登録と住民参与に関する考察や、非物質文化を取り扱う行政や生活実践者に関する人類学的考察、トン族大歌を事例とした無形文化遺産登録をめぐる人々のせめぎあいについての講演がおこなわれた。また午後には『第Ⅰ部 中国の有形文化遺産』と題し、前半は「住民の眼から見た

世界遺産」として、福建土楼や麗江古城、紅河ハニ族棚田群の世界遺産登録地域の事例についての発表があり、後半には「オルターナティブな有形遺産」として、広東省河源市の客家四角楼や台湾地域の世界遺産候補地についての発表がおこなわれた。

二日目の午前には『第Ⅱ部 中国の無形文化遺産』と題し、前半は「コミュニティと無形文化遺産」として、甘肅省蓮花山の花児や青海省チベット族のレプコン芸術、南京の跳五猖・小馬燈の事例についての発表があり、後半には「技法の伝達と無形文化遺産」として、陝西地方の秦腔伝統劇団の活動や、黄土高原窑洞居住地域の民俗文化とエコミュージアム活動の事例についての発表がおこなわれた。また午後には特別講演として、雲南省小凉山における盟誓儀礼の意義についての講演がおこなわれた後、二日間の発表に対する総合討論が行われた。各発表の詳細については、今後刊行される『国立民族学博物館調査報告』(SER)に各発表者の論文が掲載される予定なので、そちらを参照いただきたい。

(高倉健一)